

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：53901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720115

研究課題名(和文)近世中後期における身分的境界領域の人々を中心とした越境的学術ネットワークの研究

研究課題名(英文)A Study of Cross-border Network with a Focus on Academics in the Boundary Region of Social Hierarchy in the Middle and Late Early Modern Period

研究代表者

加藤 弓枝(Kato, Yumie)

豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授

研究者番号：10413783

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、近世中後期に活躍した非蔵人と地下官人出身の書肆(吉田四郎右衛門)に注目をし、その基礎的資料を整理すると同時に、彼らによる学芸営為の現場や出版活動の実態を解明した点にある。その結果、公家とも地下とも異なる彼ら独特の学芸営為の意義や、学術組織の実態を解明することができた。その過程で、身分的境界領域の人々が、すでに近世前期から京都雅文壇において重要な役割を果たしていた様相がうかがえ、各時代によってその役割の内容に大きな変化が生じていることも明らかとなった。さらに、地下官人の学芸活動に関する膨大な資料を新たに発見することができた。

研究成果の概要(英文)：I have studied of cross-border network with a focus on academics in the boundary region of social hierarchy(“Hikuroudo” and “a common courtier”) in the middle and late early modern period. As a result, I was able to elucidate significance of their study and the actual situation of the organization. Specifically, I solved that they had played the important role in the literary world of Kyoto from the early stages of the Edo period.

研究分野：日本近世文学

キーワード：非蔵人 地下官人 書肆 吉田四郎右衛門

1. 研究開始当初の背景

本研究では、近世文芸の大きな特徴の1つでありながら、未だ研究の端緒が開かれたばかりである、「身分的境界領域の人々による越境的学術ネットワーク」に注目した。

他の時代と異なる近世期の特徴に、封建制度によって身分が階層化され、異なる階層の人々特に公家と庶民等は、容易に交流を持つことが許されなかったことが挙げられる。しかし、近世中期から徐々に階層間の学術交流が目立つようになり、その交流を基盤として新たな魅力あふれる作品が生まれるにいたった。この階層間の交流を取り持ったのが、身分的境界領域の人々、具体的には非蔵人(ひくろうど)・門跡関係者・坊官等であった。

千年以上に及ぶ日本文学の歴史の中で、当然ながら近世期については、文献資料が大量に残されており、「身分的境界領域の人々による越境的学術ネットワーク」の実態を探るために適した資料も多く現存する。しかしながら、それら資料群は、あまりに膨大で未解明・未発見の部分も大きい。この膨大に残る現存資料群を何とか活用し、越境的学術ネットワークの実態を具体的に明らかにすることが、本研究の大きな目的である。このことは、近世文学史のみならず、近世文化史的に見て意義がある。

身分的境界領域である職種にもさまざまあるが、報告者はこれまで非蔵人(ひくろうど)に注目し、膨大に残る近世期の資料から彼らの和歌詠作の現場を探ってきた。これまでの研究から、「非蔵人」が近世京都文壇に果たした役割の具体例を断片的に示すことでできたが、彼らの行動を総合的に考察するには至らなかったものの、研究の過程で蘆庵文庫に1000点を超える非蔵人文書を発見することができた。これほど大量の非蔵人の資料が揃っている所蔵機関は他にない。特に新日吉神宮(蘆庵文庫の管理神社)から出仕した、近世中期より幕末に至る非蔵人日記は第1級資料であり、これらの資料を総合的に考察することで、非蔵人を中心とした学術交流の実態が解明されると考え、本研究に着手した。

2. 研究の目的

非蔵人に関する資料を総合的に検証するためには、蘆庵文庫のみならず、古人の残した最大の文化遺産である資料群を、可能な限り博搜して関連資料を見出し、書誌を収集するとともに、それら資料群を学問的に位置付けてゆく必要がある。

そのためにまず、従来の身分的境界領域の人々の学術交流に関する研究書・研究論文、作品の翻刻資料を集成し、さらに有用な未翻刻資料なども収集する。次に未翻刻資料の翻刻・解題や、索引のない研究書の人名作品の索引なども基礎作業として行う。

身分的境界領域の人々に関する資料は、ほ

とんど翻字されていない。そのため、これらの資料の翻刻も行う。また、身分的境界領域の人々の学術交流に関する資料の書誌を収集する。

本研究の特色・独創的な点は以下の3点である。まず第1点は、近世文学の特徴の1つである「文芸活動の集団性」の実態を、「越境的学術ネットワーク」という視点から具体的に明らかにする点である。本研究を通して、前近代においていかなる学術交流のうえで作品が成り立ってきたのか、文化的に明らかに出来るものと思われる。

第2点は、堂上・地下のいずれにも属さない中間の身分である非蔵人といった、境界領域にあった人々の文芸活動に着目した点である。このような人々の文化的な位置付けについては、いまだ研究の端緒が開かれたばかりで、特に後者についてはほとんど研究が進んでいない。彼らの学芸のありようは独特で、その解明は文学史に新たな一面を提示する可能性がある。

そして第3点は、膨大に残る原資料について、資料群ごとに悉皆調査を行うという、網羅的研究である点である。近世期については資料が多く存在することから、前近代の和歌を初めとする文芸を追究する上で、最も適した時代である。一方でその膨大さは研究を困難にもしている。しかしながら、困難な悉皆調査を行うことにより、人脈や作品制作背景について多くのことが解明できると期待される。

3. 研究の方法

まずは、本研究を進める上で必要となる、基礎的資料の集成と整理を初年度に行った。一次資料のみならず、研究書や研究論文、翻刻刊行された資料も収集した。さらに、関連する書誌データを得るために、蘆庵文庫(京都)・国文学研究資料館(東京)の調査を実施した。また、他の所蔵機関への文献調査も同時に行い、関連資料の収集を行った。

具体的には、平成24年度には、身分的境界領域層のなかでも非蔵人に注目し、特に藤島宗順と妙法院宮との関連について研究を進めた。藤島宗順とは、禁裏に非蔵人として出入りしていた新日吉神社の祠官である。光格天皇へ本居宣長の古事記伝を取り次いだ人物としても知られるが、妙法院宮との関係が深い人物でもあった。近世後期の京都において妙法院宮(とくに真仁法親王)の果たした文化的役割は大きく、独自の文化サロンを形成していたことは周知のごとくである。その妙法院宮と藤島宗順を中心とする非蔵人との関連について研究を進めた。

平成25年度は、主に非蔵人職についていた人々の人名・略歴一覧の作成に力を入れた。現在、非蔵人職について調べる際には、正宗敦夫編『地下家伝』(昭和43年間)を参照することになるが、原資料とつきあわせると、その記載には諸本によって異同が多い。そこ

で、豊田高専蔵『非蔵人惣次第』、羽倉敬尚氏が『非蔵人文書』で翻刻した『非蔵人惣次第』、正宗敦夫編『地下家伝』に掲載されている非蔵人の人名・略伝データを Excel 入力し、その異同箇所を明らかにしつつ非蔵人一覧を作成した。

平成 26 年度は、前年度に引き続き非蔵人一覧の作成に従事すると同時に、身分的境界領域に位置した京都の書肆吉田四郎右衛門の出版活動の実態を解明した。吉田は朝廷より六位の官位を与えられ、院雑色に補せられていた。具体的には、近世前期より幕末まで活躍していた歴代吉田四郎右衛門による出版活動の特徴を明らかにするとともに、知の伝播という側面から彼らの活動が京都歌壇や文壇に与えた影響について考察した。

平成 27 年度は、昨年度に引き続き、身分的境界領域層にあった京都の書肆吉田四郎右衛門の出版活動の実態を具体的に明らかにした。具体的には、この書肆の歴代当主の営為を、実際の出版物を通して検討することで、身分的境界領域にあった彼らが江戸時代の京都歌壇や文壇に果たした得意な役割について研究を進めた。

4. 研究成果

本研究の成果は、近世中後期に活躍した非蔵人と地下官人出身の書肆吉田四郎右衛門に注目をし、彼らの学芸営為の現場や出版活動の実態を解明した点にある（加藤弓枝「六位の書肆吉田四郎右衛門 出版活動の実態と古学の伝播に果たした役割」『近世文藝』102号・日本近世文学会・2015、加藤弓枝「添削の達人 小沢蘆庵とある非蔵人の和歌」『文学』5-6月号・岩波書店・2005ほか）。

その結果、非蔵人の略歴をまとめると同時に、公家歌人とも地下歌人とも違う彼ら独特の学芸営為の意義や、学術組織の実態を解明した。さらに、地下官人出身の書肆が近世京都文壇に果たした特異な役割についても明らかにすることができた。

その過程で、身分的境界領域の人々が、すでに近世前期から京都雅文壇において重要な役割を果たしていた様相がうかがえ、各時代によってその役割の内容に大きな変化が生じていることも分かってきた。

さらに、これまでの研究によって、以前より発見していた約 1000 点の非蔵人文書（京都女子大学蘆庵文庫所蔵）に加え、京都府立総合資料館に、公家の一条家に仕えた地下官人の下橋家伝来資料が 4000 点以上現存することを知り得た。これらの資料を総合的に考察することで、非蔵人や地下官人が近世雅文壇において果たした文化的役割の変容の実態を解明することができよう。また、関連資料の発見に加え、「禁裏御書物所」を務めた書肆が、吉田四郎右衛門以外にも居たことも判明した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 9 件)

加藤弓枝、非蔵人の文学的営為 蘆庵文庫蔵書を通して、調査研究報告、査読無、33 巻、2013、pp.3-13

熊澤美弓、加藤弓枝、備後護国神社所蔵白澤図添付文書について、豊田工業高等専門学校紀要、査読無、46 巻、2013、pp.162-153

加藤弓枝、近世後期上方における和歌の宗匠たち 名古屋蓬左文庫所蔵『宗匠家談話』解題と翻刻、上方文藝研究、査読有、11 巻、2014、pp.47-56

加藤弓枝、熊澤美弓、豊田工業高等専門学校蔵『非蔵人座次総次第』 翻刻と解題（上）、豊田工業高等専門学校紀要、査読無、47 巻、2014、pp.184-157

加藤弓枝、六位の書肆吉田四郎右衛門 出版活動の実態と古学の伝播に果たした役割、近世文藝、査読有、102 巻、2015、pp.1-14

加藤弓枝、吉田四郎右衛門出版年表、上方文藝研究、査読有、12 巻、2015、pp.24-37

加藤弓枝、初代吉田四郎右衛門自当について 墓碑と肖像彫刻を中心に、金城学院大学論集人文科学編、査読無、12 巻 1 号、2015、pp.13-22

加藤弓枝、六帖詠草の出版 その編纂意識と鈴屋集の影響、鈴屋学会報、査読有、32 巻、2015、pp.15-31

加藤弓枝、熊澤美弓、豊田工業高等専門学校蔵『非蔵人座次総次第』 翻刻と解題（下）、豊田工業高等専門学校紀要、査読無、48 巻、2015、pp.1-20

〔学会発表〕(計 9 件)

加藤弓枝、非蔵人の文学的営為 身分的境界領域層の果たした役割、調査研究シンポジウム「近世における蔵書形成と文芸享受」、2012 年 6 月 7 日、国文学研究資料館

加藤弓枝、加治田に伝わる万葉集、富加町郷土資料館特別企画シンポジウム、2013 年 11 月 4 日、タウンホールとみか小ホール

加藤弓枝、書肆吉田四郎右衛門元長の動向 蘆庵社中との関係を中心に、東海近世文学会 / 「書物・出版と社会変容」研究会との合同例会、2014 年 6 月 28 日、中京大学

加藤弓枝、小沢蘆庵の家集をめぐる諸問題 近世和歌注釈への一視座、和歌文学会 7 月例会、2014 年 7 月 19 日、二松学舎大学

加藤弓枝、境界の書肆吉田四郎右衛門 出版活動の実態と古学の伝播に果たした役割、日本近世文学会、2014 年 11 月 23 日、日本大学

加藤弓枝、板本『六帖詠草』考 小沢
蘆庵と門弟たちのねらい、近世にお
ける天皇歌壇とその周辺研究会、2015年
2月28日、大手前大学夙川キャンパス
加藤弓枝、六帖詠草の出版 その編纂
意識と鈴屋集の影響、鈴屋学会、2015
年4月19日、本居宣長記念館
加藤弓枝、『二十一代集』の開版 書肆
吉田四郎右衛門の創始と終焉、東海
近世文学会、2015年10月24日、熱田神
宮文化殿
加藤弓枝、正保版二十一代集と堂上歌壇
出版背景を中心に、近世におけ
る天皇歌壇とその周辺研究会、2016年2
月28日、大手前大学夙川キャンパス

〔図書〕(計1件)

鈴木淳、加藤弓枝、明治書院、和歌文学
大系70 六帖詠草・六帖詠草拾遺、2013、
532

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 弓枝 (KATO, Yumie)

豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授
研究者番号：10413783

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし